



「いこまたかた、あばっせなごや」を踊る見咲樹会の皆さん



力強い太鼓演奏を披露する氷上共鳴会



名古屋市から駆け付けた「世界の山ちゃん」のキッチンカーには行列ができていました



広沢名古屋市長から奇跡の一本松の孫苗が佐々木市長に手渡されました



中庭で開催された餅まきと菓子まきには大勢の人が集まりました



名古屋市との15年 繫いだ絆をずっと大切に

2026.2.22
絆まつり

イベントに参加した「名古屋team S」のメンバー

開会のあいさつをする
大曾根実行委員長(右)
と松田副委員長(左)



東日本大震災後、名古屋市と本市の中学生による「絆交流」に参加した有志が中心となり、2月22日(日)、奇跡の一本松ホールにて本市初となる「絆まつり」が開催されました。

会場では、交流の歩みをまとめたパネル展示、ご当地グルメのキッチンカー、特産品の販売や本市ゆかりのアーティストなどによるステージイベントが行われました。

ステージイベントでは、令和3年に交流のシンボルとして名古屋市東山動物園へ寄贈した「奇跡の一本松」の後継樹の遺伝子を継ぐ「孫苗」が、絆の証として本市へ里帰りを果たしました。また、中学生交流のテーマソング『未来への翼』の新しいミュージックビデオを上映。両市の歩みを振り返る内容に、来場者は感慨深い様子で見入っていました。

フィナーレでは、テーマソング制作に携わった4人のアーティストと実行委員会、そして絆交流に参加した市内の中学生約20人が『未来への翼』を合唱。「失った笑顔の分まで、見失わずに生きてこう」。世代を超えて肩を並べ、声を合わせて歌い上げられた力強い決意の歌詞が、これまで交流に関わってきた人々の想いと重なり合い、会場を温かな感動で包み込みました。

実行委員長の大曾根吉哉さん(名古屋大学2年)は「中学生交流で訪れた際に陸前高田市民の方から「ここで見たこと、感じたことをきちんと伝えて欲しい」という言葉を胸に防災啓発活動が続けてきた。これからもお互いが一つ一つの街として交流を続けていってほしい」と思いを寄せました。

